

【ひろしま避難者の会「アスチカ」とは？】

避難者による避難者のための会です。

東日本大震災の地震や津波、東京電力福島第一原発事故の避難者がここ広島で生活の基盤や気持ちを整えたり、同じ思いの仲間を見つけたりしながら、避難生活を落ち着かせ、次のステップへ踏み出すことをサポートする当事者団体として設立しました。現在、アスチカには 97 世帯 314 名の避難者が登録しています。

※「アスチカ」＝「明日へすすむ力」

表1 広島県把握の避難者数

	世帯数(人数)	%
岩手	1 (4)	0.9
宮城	6 (18)	5.3
福島	66 (182)	58.4
その他(関東地方など)	40 (106)	35.4
計	113 (310)	

2023年2月1日

※表1の人数は全国避難者情報システム(総務省)への本人からの届け出により把握されている人数です。すべての避難・移住者が登録しているものではありません。広島県にも未登録の避難者が数多くいます。また、本人の意思で登録解除をされる方もいます。

登録後、避難先で転居した際に登録情報の変更連絡が必要なことや正しい連絡方法の認知が低く、知らない間に登録から外れていることがあり、再登録のサポートをすることもあります。

表2 アスチカ会員世帯 避難元別

	世帯数(人数)	%
岩手県	0 (0)	0.0%
宮城県	8 (25)	8.2%
福島県	47 (149)	48.5%
関東地方	42 (140)	43.3%
計	97 (314)	

2023年2月28日

新規入会世帯は1世帯。退会6世帯。新規入会世帯は他の避難先から広島県へ越してきた方。

97世帯のうち4世帯は現在他県在住。広島から他の土地へ移られても情報の獲得やつながりを維持したい方は会員(準)として登録いただいています。

表3 アスチカ会員 世帯状況

	世帯数	%
単身	8	8.2%
大人のみ	21	21.6%
大人+子ども世帯	68	70.1%
(うち母子世帯)	16	16.5%

子どもは18歳未満をカウント。

子どもが成長し、世帯全員が18歳以上となって大人のみ世帯とカウントされる世帯もさらに増えました。

アスチカ会員アンケート結果 回収数 35世帯／97世帯(回収率 36.1%)

2月9日(木)郵送により配布 3月4日(土)までの回答分を集計

Q1 住民票は異動しましたか？

	回答数	%
異動した	32	91.4
異動していない	1	2.9
その他	2	5.7

(異動した理由・その他)

- ・新天地で生きていくと決めて出てきたから
- ・住宅を購入したから

異動した理由 (複数回答あり)

	回答数	%
移住だから	11	32.4
今、住んでいる場所だから	11	32.4
避難先へ納税	0	0.0
仕事の都合	1	2.9
子どもの保育園や学校の都合	8	23.5
公営住宅入居のため	2	5.9
その他	2	5.9

異動しない理由 (複数回答あり)

	回答数	%
不都合がない	1	33.3
家族のつながり	2	66.7
避難元の子どもの医療費支援が充実	0	0.0
福島県県民健康調査などの健康管理の維持	0	0.0
避難元への愛着	1	33.3
復興住宅への入居意向のため	0	0.0
その他	0	0.0

Q2 避難の理由は何ですか？

避難の理由 (複数回答あり)

	回答数	%
地震による家屋の消失・損壊	6	17.1
津波による家屋の消失・損壊	1	2.9
原発事故による強制避難	2	5.7
原発事故による健康影響(含、不安)	27	77.1
仕事がなくなった	2	5.7
精神的ストレス	9	25.7
余震への不安	7	20.0
原発事故悪化への不安	15	42.9
その他	1	2.9

広島にいる 3.11 の避難者は、原発事故の影響で避難した人が多く、土地柄もあり、原発事故への関心も高く持っています。
しかし、津波と地震の影響で広島に来ている人も確実におり、広島での定住を決めている方もいます。そういう方がいることも知っていただけるとうれしいです。

(その他／自由記入) ・汚染により事業を続けられないと判断したため

・原発事故に関しての隠が許せないという想いで来ました。

Q3 広島へ避難された理由は何ですか？

広島へ避難した理由	(複数回答あり)		
	回答数	%	
地震等自然災害が少ない	4	11.4	(避難者への支援がある) ・受け入れ支援があった ・住宅支援があった。
被災地から遠い	8	22.9	
自然に恵まれている	3	8.6	(その他・自由記入) ・新たに就農できる土地を見つけるため ・旅行に来て、避難(自主)できると知りました。 ・知人の紹介
被爆地であることへの期待	5	14.3	
生活が便利	1	2.9	
家族・親族がいる	22	62.9	
友人・知人がいる	5	14.3	
知っている避難者がいる	0	0.0	
たまたま仕事が見つかった	2	5.7	
以前住んだことがある	5	14.3	
西の食材が手に入りやすい	9	25.7	
一時避難・保養に来た縁	0	0.0	
避難者への支援がある	1	2.9	
その他	4	11.4	
無回答	1	2.9	

避難の時期が早い会員は「家族・親族がいる」の選択が多め。関東からの避難者は仕事を確実に決めてから移動されている場合が多い。「被災地から遠い」「西の食材が手に入りやすい」という選択が多いのは原発事故での避難者が多いから。

Q4 住居について

①現在お住まいの住宅は？

現在の住居	回答数	%
県営住宅	4	11.4
市・町営住宅	2	5.7
ビレッジハウス(旧雇用促進住宅)	1	2.9
実家、親戚宅	5	14.3
持ち家	10	28.6
民間賃貸住宅	11	31.4
民間借り上げ住宅	0	0.0
その他	2	5.7

②避難者向けの住宅支援を受けていますか？

	回答数	%
はい	1	2.9
いいえ	34	97.1

避難者向けの住宅支援はほぼ終了している。

(その他)・親の持ち家
・町内の方からの借家

Q5 避難・避難後の生活で、あってよかった支援、欲しい or 欲しかった支援は何ですか？

これまでを振り返って、あって助かった支援、欲しかったがなかった支援を挙げてもらいました。避難元によって受けられる支援が違っているので、受けられた人と受けられなかった人がいたものもあります。情報が得られず、対象者であったのに受け取れなかった支援もあったと思われます。
また、公的支援ではなく、民間の支援につながり、支援を得られた方もいます。

《あってよかった支援》

避難者交流会 / 同じ関東からの避難者と集まる場所、機会の提供 / 家賃補助・住宅支援
生活物資の援助・赤十字からの生活用品(家電) / 催し物の案内、招待 / ボランティアの方々の支援
アスチカのような支援団体があるという安心感 / 甲状腺検査病院の紹介
本願寺さんより避難元への交通費補助とても助かりました。
同じような境遇の方と会って話ができる機会が持てたこと

《欲しい・欲しかった支援》

住宅支援、住宅提供 / 避難元への交通費・福島に残っている家族が避難した家族に会うための費用
生活再建金 / この土地では新規就農なので、その支援が欲しかった
生活物資の支援が1回限りでなく1年間ほど期間があるとよかった。
関東からの避難者でも受けられる支援があればよかったと思います。

Q6 世帯の18歳以上の方の就業状況。

	回答数		回答数
正社員	13	アルバイト	1
公務員(正規)	3	専業主婦・主夫	3
公務員(非正規)	0	学生	6
契約・嘱託社員	1	求職中	0
派遣社員	1	無職	1
自営業	11	その他	2
パート	10	無回答	11

(その他)
・自営準備中

Q7 生活費・収入は十分ですか？

	回答数	%
十分	2	5.7
まあ満足	17	48.6
苦しい	14	40.0
その他	2	5.7

(その他)「まあ満足」と「苦しい」の間
「やや苦しい」

「その他」の回答を含め、「苦しさ」を感じている割合は増加。

Q8 生活面(住まい・仕事など)に関して、ご自由にお書きください。(お悩みや思うことなど)

- ・物価光熱費の高騰で苦しいとまではいかなくとも生活は楽ではない。
- ・住宅支援が欲しい
- ・息子が春から中学生になると一人部屋がいると思うが、仏間をなんとか息子用にして、私はどこで寝ようか？
- ・最近イラストレーターとして開業した。これからがんばっていきたい。
- ・落ち着いて広島での生活が出来ている。しかし、完全な移住とは決めていない為、どこか落ち着かない気持ちもある。
- ・これから中学生を高校→大学など、今はいいけど、これから資金が心配。
- ・地域になじめない。
- ・去年から仕事を変えてフルタイムで働いていますが、50歳になって体力がきついです。
- ・震災時はとにかく健康面優先で空気のキレイなのどかな場所に引っ越したが、(親も年を重ね)子供が大きくなったら通学に不便で雪も多く、もともと自分が利便性のよいところに居たので、不便さを感じてしまう。

Q9 ご家族の中(避難元の親御さんなども含め)で健康に不安のある方はいらっしゃいますか？

	回答数	%
はい	13	37.1
いいえ	21	60.0
無回答	1	2.9

親が避難元、避難先どちらにいらっしゃるかに関わらず、親の健康への不安を述べる方が多かった。

Q10 今後のご予定は決まっていますか？

	回答数	%
今住んでいる自治体へ定住	11	31.4
避難元ではないところへ移動	0	0.0
避難元へ戻る	1	2.9
決めていない	18	51.4
上記に当てはまらない	2	5.7
無回答	3	8.6

- ①避難元に帰りたい：3
②避難先に定住したい：8
③選択なし：7

(今住んでいる自治体に定住)

動く資金がないので定住するしかない / 子どもの近くだから / 実家だから
家を購入したため / 仕事があるから / 子どもの学校関係のため

(避難元へ戻る)

長期に夫と離れてしまっているのと、子どもの進学等見据えて

(決めていない) ※①避難元に帰りたい ②避難先に定住したい ③選択なし

①避難元に戻りたい

老後は福島へ行きたいと思っはいるが、子供らと共にいると思う / 生まれ育った場所だから
どっちもどっちで本当にわからない。戻りたくても自分がそこまでの体力があるかどうか(金銭面も含めて)

②避難先に定住したい

原発事故の影響が気になる / (避難先の)生活が落ち着いているし、戻る不安は拭えない
娘が非常に空気に敏感であり、現在の住まい周辺の空気がよいため / 安心して生活できる(食料 etc)
子どもも広島がふるさとになっているから / 今いる場所が気に入っている。
先のことを考える余裕がない。また、今後も何かあるかも…と考えると、その時その時で良い選択をすべきかなと思う。

③選択なし

避難元でも、避難先でもないところで残りの人生を幸せに過ごしてみたいが。
体調が今、不調のため決められない。
避難元も避難先もどちらも大事で決められない。 / どちらの気持ちもある。

(上記には当てはまらない)

子どもたちが家を出ることになったら、夫婦で暮らす場所はここではないかなと思っています。

「定住」以外が約7割。避難から約10年経ってみて、子どもの成長や高齢になってくる親の姿、広島での生活の現状、仕事の都合、家族の健康、望郷の念、当初は見えていなかったことに直面するなどして新たな気付きや気持ちを持つようになっているようです。

決め過ぎず、その時その時の最善を考えようという傾向は時間の経過と共に見えてきたものです。昨年迷う気持ちを書いていた方で、今年は決断された方もいました。

Q11 今、大変なこと、つらいことは何ですか？

(複数回答あり)

	回答数	%
仕事が見つからない	3	8.6
仕事にやりがいを感じない	0	0.0
生活費が足りない	10	28.6
支援が縮小していくこと	4	11.4
避難指示が解除されたこと	0	0.0
避難指示が解除されそうなこと	0	0.0
体調不良	7	20.0
忙しすぎる・自分の時間がないこと	8	22.9
親の介護	7	20.0
育児	1	2.9
子どもの教育・進路	9	25.7
家族バラバラに暮らしていること	5	14.3
避難元の親・親戚・友人になかなか会えないこと	10	28.6
心の余裕のなさ・精神的な不安定さ	3	8.6
家族間の意見の不一致(夫婦間、パートナーと自分)	1	2.9
家族間の意見の不一致(自分と親)	2	5.7
家族間の意見の不一致(自分と子ども)	1	2.9
避難元が復興しないこと	0	0.0
避難元の復興が望む形と違うこと	3	8.6
避難元に帰れないこと	0	0.0
今住む地域に親しい友人がいないこと	7	20.0
避難元の友人と疎遠になってしまったこと	11	31.4
震災や原発事故のことが世間から忘れられているように感じる	8	22.9
原発が再稼働されたこと	6	17.1
避難先の人たちと意識の差を感じる	6	17.1
避難への無理解	3	8.6
特になし	1	2.9
その他	6	17.1
無回答	0	0.0

(その他／自由記入)

- ・年齢的に友達が亡くなっている
- ・親は福島なので子育てのサポート、アドバイスなどが受けにくい。親しい友人も福島におり、寂しく感じることはある。
- ・(自分は)いたって元気だけど、身近で同世代が亡くなることがあり、心配になってきた。
- ・原発事故を起こした国で、いつまでも原発をやめようとしないうちに失望のような気持ちになります。未来に明るさを感じない。

1人でたくさんの項目にチェックを入れるより、数か所のみチェックを入れる方が多く、回答がばらけた印象。避難元との関係に寂しさを感じている様子は強い。生活費不足⇒物価高騰は避難者に限らず直面していることだが、避難してから蓄えを使って生活再建に取り組んできた避難者にとっては、よりダメージは大きい。子どもの教育・進路⇒子どもが高校、大学の年代になってきて、進路の方の比重が多いチェックになっていた。

Q12 今後、どんなことに不安がありますか？

(複数回答あり)

	回答数	%
避難先の生活が安定するか	6	17.1
自分の健康が保てるか	18	51.4
家族の健康が保てるか	8	22.9
避難し続けられるか	4	11.4
公的支援がいつまで続くか	2	5.7
避難指示が解除されること	0	0.0
子どもをしっかり育てられるか	4	11.4
子どもの教育・進路	8	22.9
家族と一緒に暮らせるか	2	5.7
夫婦の関係が悪化しないか	1	2.9
避難元の親・親族との関係、付き合い	8	22.9
避難元へ帰れるか	0	0.0
避難元へ帰らなければいけないこと	1	2.9
避難元へ帰った時に孤立しないか	1	2.9
避難元にいる親の老後・介護	11	31.4
避難先での人間関係	3	8.6
特になし	0	0.0
その他	1	2.9
無回答	1	2.9

- ・入院しない程度の病気が心配。
- ・(これから)中学生を一人で育てられるか心配はしている。
- ・親は「大丈夫」とは言うが、高齢で心配。出費は必要なことと思って、今までよりももっと頻繁に帰省したいと思う。

自分の健康のチェックが一番多かった。この場合の「自分」は1人世帯の本人や各家庭の母親の場合が多い。これまで頑張ってきた中で、体の衰えも感じることから健康維持への不安を感じているようである。

避難元の親への心配は今年も回答数も多く、割合も増えた。避難元との関係、子どもの教育・進路はここでも課題になっている。

Q13 震災から間もなく12年の時期になって、変化してきたことは何ですか？良いことでも悪いことでも気づきがあれば教えてください。

(複数回答あり)

	回答数	%
気持ちが穏やかになってきた	13	37.1
あきらめのような気持ちが強くなった	13	37.1
生活が安定してきた	8	22.9
楽しいことをしようという気持ちになってきた	8	22.9
無気力になってきた	3	8.6
前向きな気持ちになってきた	10	28.6
将来への不安が強くなった	7	20.0
広島に定住する気持ちが固まった	4	11.4
避難元へ帰りたい気持ちが強くなった	2	5.7
怒りが強くなった	0	0.0
変化はない	2	5.7
その他	4	11.4
無回答	1	2.9

(その他)

- よくも悪くも「生き延びねば」と緊張感があったが、そういった張り詰めたものはなくなり、リラックスして暮らしている。油断かなと、ふと思うこともある。
- 避難元の友達に会いたい。連絡は取っているけど、広島⇄福島が遠くて会えない。(コロナ感染も気になるため)
- 加齢による体力(気力)の低下が不安です。
- 自分のためのことを考えてもいいのかな？という気持ちが出てきた。子の成長(上の二人が社会人)となり、未っ子のみになって、気持ちが少し楽になったからかも。生活は変わらず大変。
- あまり考えないようにしています。
- とにかく子供たちが自立していけるよう育て上げることに集中したいと思っている。

「気持ちが穏やか」と「あきらめのような気持ち」が同数で最多。「不安が強くなった」の割合が増えた。

「気持ちが穏やか」「前向き」「楽しいことをしよう」を一緒に選ぶ方、「あきらめのような気持ち」だけを選ぶ方など個別の違いがあった。

Q14 自分を「避難者である」と言うことに抵抗はありますか？

	回答数	%
とても抵抗がある	2	5.7
少し抵抗がある	10	28.6
あまり抵抗はない	11	31.4
全く抵抗はない	11	31.4
無回答	1	2.9
その他	0	0.0

□とても抵抗がある

- ・もう避難者ではないから

□少し抵抗がある

- ・興味のない人に対してあえて伝えることはしていない。
- ・自分自身では“避難者”と思っているが、受け手との意識の差が大きいことから抵抗がある。
- ・もう原発事故のことなんて皆忘れていると思うので。

□あまり抵抗はない

- ・本当だから
- ・自分が避難者であることを伝えることで、フクシマを思い出してもらえるから

□全く抵抗はない

- ・差別するような態度は1度もなかったため
- ・事実だし、聞かれたら答えるだけなので。

これまでの体験からの気持ちがあったり、「避難者」という言葉の捉え方が人によって違ったりすることが見て取れる。

Q15 お子さんと避難した方へ伺います。

避難したこと、避難してきてからのことについて、お子さんと話をしたことはありますか？

	回答数	%
はい	18	51.4
いいえ	7	20.0
無回答・回答対象外	10	28.6

① (はいの方) お子さんはどのような話をされましたか？

- ・「ぼくは福島生まれなんよね。」
- ・日本にいたかったと言われた(国外に出た理由を伝えたとき)
- ・新しい環境になることがうれしかった、とのこと。
- ・1才半だったので全く覚えていないが、食の選び方などが他の子と違うとは感じていたらしい。
- ・震災当時の記憶していること、転校など大変だったこと、当時住んでいた持ち家のことなど
- ・父・兄と離れて寂しかった。
- ・小学校低学年だったので、断片的な記憶しかないよう
- ・広島へ連れてきてしまって申し訳ない、安定した生活を送らせてあげられなかったと後悔していましたが、「広島で良かったよ、むしろ来れて良かった」と言ってもらえて胸のつかえがとれました。
- ・「福島にいたら、それはそれで楽しかったとは思いますが、今は今で楽しいからこれで良かったと思う」
- ・手紙で昔のことを教えてもらったが、私は一緒にいなかったなので、毎日泣いていた、などもあった。だけど、広島でそれぞれにすすむ道を見つけたことも教えてくれました。
- ・関東にいたことなど覚えていない。特に不満はない。

② 避難したことによりお子さんが抱えてしまった悩みはありますか(ありました)か?また、それについて家族で話したことがあればお聞かせください。

- ・自宅から通える大学が関東よりも少ない。
- ・父親が避難したことで心の病気になる、一緒に暮らせなくなってしまった。
- ・日本語が分からなくなって日本の学校等になじめなくなった、漢字が苦手になったと不満を漏らしたこともあるが、一方で英語が話せるのはアドバンテージと話し合った。
- ・(食の選び方が)「人と違う」という気持ちはあるようですが、悩んでいたかはわからない。
- ・転校(引っ越し)が何度もあったので、そのことで性格に影響していること。
- ・特にない
- ・転校したことにより、友人と離れてしまい、淋しい思いはしました。連絡をとりあう姿を見て、本当に切なくなりました。子供は言うてはきませんでした。淋しいのはわかるし、夫婦では悪いことをしたと話していました。
- ・言葉やペースが違うので、軽いいじめを受けたことがありました。小さい学校でしたので、中学もほとんどメンバー変わらずで小・中と居心地よくなかったそうです。(頑張っていて通っていました)
- ・祖父母や親戚になかなか会えないこと。本来なら経験する冠婚葬祭を全く経験させることが出来ないのも世間の常識みたいなものを知らずに育ってしまったこと。

③ (直接避難について話をする以外の)お子さんの日常の言動から、避難したこと、避難してからのことについてどう捉えているか、どう思っていたかなど、感じ取ったことなどがあればお聞かせください。

- ・たまたま縁があって広島に来ましたが、学校生活は満足しており、今の学校に進学出来て良かったと思っているようです。(高2)娘にとっては広島が故郷なのではないかと思えます。
- ・自分のふるさと、地元はどこなのかわからないと言われます。小さいころに転々としたのでずっと一緒にの友達がいない。幼なじみという存在がいる人がうらやましいとも。そういう点では寂しい思いをさせてしまったと思います。
- ・仕方ないと思っている様子。父と一緒に暮らしてないのは寂しい様子
- ・友人関係の中で避難してきたことが何か人と違うようなわだかまりになっていた部分があったのではないかと感じることもあった。
- ・絶対マスクを外さなくなり、人の目を気にしているのもわかりました。
- ・広島に来てから引っ越しなどで友達と離れ離れになってしまったことが悲しかったようです。
- ・地震が起きると子供たちがとても怖がる。思い出したくないため、震災の話はしていない。

Q16 発災から10年以上が経ちました。避難生活の中でよかったと思うこと、つらかったと思うこと、自分自身の気持ちの経過、今だから思うことなど、これまでを振り返ってのことをご自由にご記入ください。

- ・貯蓄すること、勉強すること、新たな能力を身につけること、節約すること、人に会うこと、行きたいところに行くこと等、原発事故の前にもっとやっておくべきだったと思います。
- ・仕事の都合で家族が別居していたが、避難をきっかけに同居できるようになったので、結果としてはメリットの方が大きい。
- ・振り返るとつらいこともたくさんありましたが、新しい出会いや精いっぱい今日までがんばってきた自分にありがとうの感謝も湧いてきます。アスチカさん、いつもありがとう。

- ・孤独感が強くなった
- ・今まで畑をしていたのに今は出来ない環境で寂しい。
- ・言葉の違い
- ・子どもを比較的安全と思う場所で育てることが出来たのは良かった。
- ・(避難先に)購入した家をそのまま持っていたら経済的に今と比べどうだったかと考えて、くやしい気持ちになることもしばしばあったが、今はあの選択(家売って移住)はやはり私たち家族にとっては最善だったと思う。
- ・広島に来て(戻って)2~3年は生活も大変でしたが、夫婦ともに仕事に恵まれました。
- ・もうこんな時間が過ぎたのかと思うと信じられない。だけど、あの時思い切って広島に来てよかったと思う。自分の人生を歩んでいると前向きにとらえている。
- ・つらいことは特になかったが、義理の両親のもとを離れてしまったことはずっと申し訳なく切ない。ヒリヒリした気持ちで生活していたころのことはあまり記憶にないが、決して解決してもないので、非常に宙ぶらりんの落ち着かない気分が続いている。変な話だが、年を取ったように思えず、10歳下の年齢のままの気がして書類の年齢を当時のまま書いてしまうことがあった。
- ・震災当時~1年くらいのは本当は辛いことばかりで良いことは避難者同士で友人ができたことくらいでしょうか。思い出したくないという無意識の感情からフタをしてしまっていると思います。でも、そのフタをあけて全部吐き出してしまうことが「リハビリ」になるような気がします。無料でカウンセリングなどあったら利用したい!
- ・一人で子供を育てる大変さが本当に大変でした。
- ・子どもたちにとっては学業・遊びの面で充実した環境を提供できたと思う。ただ、親戚づきあい等があまりなかったのも、その点は残念に思う。仕事の面では福島の方がよかった。
- ・今はとにかく、自分の人生を楽しく生きることが目標です。今、生かされている命をどれだけ充実させるかと思っています。
- ・もう広島に来て10年以上たち、広島が地元になっているけど、相変わらず主人は関東だし、母親も年取ってきて心配です。ずっとその現実から逃げています。
- ・避難生活でいろんな方の支えがあり、無事出産、子育てをすることができた。人の優しさをたくさん感じ、自分も恩返しのつもりで困っている人がいたら手助けしてあげようと思うようになった。ただ、生まれ育った福島の四季折々の自然やイベントなどを子供に見せてあげられないのは残念。親戚が亡くなること続き、見舞いや葬儀に参列できなかったのは心残り…。
- ・良くも悪くもあったんだろうけど覚えていないってことは大したことではなかったのかな。これから楽しいこと見つけないとね。
- ・二重生活で節約して暮らしていたので、子ども達に我慢させていたことは多かったのではないかと思います。私の体力の問題もあって、旅行はもちろんいろいろなところに連れて行ってあげられなかったなあと思います。子ども達と一緒に暮らせるのもあと何年あるか…と思うと、今からでも少しでも親子で経験できることをいろいろしたいと思います。

Q17 今、楽しいこと、楽しみにしていることはありますか？

	回答数	%
はい	26	74.3
いいえ	5	14.3
無回答	4	11.4

実家のネコを引き取り育てている / 年金が入る年を楽しみにしている / スポーツ
 ピアノの練習 / 甥とのふれあい / いどばた交流会の参加 / アスチカに来れること
 開業の準備・新しい仕事を始めること / 仕事 / 子どもたちとの時間 / 友人との楽器演奏
 自営の仕事を通して色々な方と出会い、関わること / 子供の成長、子どもの未来
 イラストレーターとしての起業。絵を描くこと / オンラインのみでの友人にオフ会で会う楽しみ
 子どもの部活動の応援 / 海外にいる長女のところに行きたい / ジム通い / ライブ
 子どもと●●(買い物・釣り・カーブ観戦) / Netflix 等のドラマ / マンガ / 友人が出来たこと
 ・子どもたちが日々成長していっているの、子どもの夢が叶うといいな、と応援している。
 ・本当に気の合う仲間が全国にいて、その仲間と会って、お酒を飲むこと笑

Q18 アスチカに求めているもの、会員でいること理由は何ですか？

(複数回答あり)

	回答数	%
他の避難者と知り合うため	7	20.0
避難者同士のつながり(交流会などには出ずとも)	21	60.0
アスチカニュースなどが届くこと	15	42.9
支援情報の獲得	10	28.6
さまざまな催しの情報獲得	9	25.7
困った時の相談場所として	20	57.1
避難者であることの自己確認(「自分＝避難者」であることを確かにする)	6	17.1
精神的支え	21	60.0
避難者同士の情報交換のため	10	28.6
その他	2	5.7

(その他) ・スタッフが優しくしてくれて話をしてくれる。
 ・福島とのつながりを感じられるから

Q19 あなたにとってアスチカの活動で必要なもの上位3つを選んでください。

	回答数	%
交流カフェ・出張交流カフェ	11	31.4
アスチカニュース・たねまく通信の発行・郵送	19	54.3
「たねまく広場」の運営	11	31.4
「たねまく広場」でのイベント	6	17.1
メーリングリスト	3	8.6
民医連健康相談会の案内	12	34.3
支援情報の獲得・仲介	17	48.6
他の支援団との繋がり	4	11.4
会からのコンタクト(電話)	1	2.9
会からのコンタクト(訪問)	4	11.4
その他	1	2.9
無回答	2	5.7

(その他)

- ・避難者たちの抱える課題などを長期的、広範囲で集約して、その情報を保存、活用(発信・提供)していくこと。これからの社会のためにも、辛い思いをしてる人たちを手助けできるようにするためにも。

「つながり」と「情報」の二つが求めることのキーとなっています。
月に一度の会員への郵送物は、孤立していないと感じる機会にもなっているようです。アスチカの事務所兼交流スペース「たねまく広場」があること自体も、避難者のつながりを目に見えるものにしていくことで安心感を与えられているようです。

Q20 「アスチカがあっよかったと思った瞬間があれば教えてください。ささやかなものでもかまいません。

- ・特に初期のころ、福島以外、関東からでも避難を考えることが異常な対応ではないと皆と会えて思えたので、集う場を作ってくださったアスチカに感謝です。
- ・同じ境遇の方と知り合えたこと
- ・スタッフさん方の努力により団体としての力(発言力や情報収集など)が強まっていそうだなあ…と会報などを見て感じる時。
- ・困ったときの相談場所があると思うこと。支えていただきました。
- ・他でできない、分かり合えない話が共感をもって思う存分出来て、心の支えになった。友人もなく三出来て、子育ての助けにもなった。
- ・他人には絶対打ち明けられないことでも相談できるスタッフがおられること
- ・自分が誰かと繋がっていると思えるから
- ・福島へのツアー、交流カフェ、ADR を紹介して下さったことなどたくさんあります。会からのコンタクトの際、懐かしい福島弁に心が和みます。
- ・アスチカスタッフのみなさんが頑張ってくれてることで自分も頑張らなきゃと思ってきました(私は自分のことばかりですが)。自分の気持ちの支えと勝手に感じてました。ありがとうございます。

Q21 アスチカを退会するのはどうなった時ですか？

(複数回答あり)

	回答数	%
広島を離れる時	11	31.4
「もう避難者ではない」という気持ちになった時	2	5.7
支援や情報が必要なくなった時	5	14.3
自立できたとき	1	2.9
アスチカの活動終了時まで会員でいる	24	68.6
その他	0	0.0
無回答	1	2.9

それぞれが広島でいろいろな人や社会とのつながりを作って生活をしているが、3.11 をきっかけに広島で暮らすことになった者同士というコミュニティーは、会員にとって広島での生活が落ち着いたからといって必要なくなるものではなく、精神的な支えとして必要とされていると感じる。

Q22 広島の中で心を許せたり、頼り合ったりできる人とのつながりはできましたか？

	回答数	%
はい	24	68.6
いいえ	11	31.4

(「はい」の人)アスチカがなくとも成り立つ？

	回答数	%
はい	22	91.7
いいえ	1	4.2
無回答	1	4.2

(「いいえ」の人)なぜ？(複数回答あり)

	回答数	%
出会いが無い	4	36.4
時間がない	1	9.1
出会う場に行っても見つからない	1	9.1
必要としていない	1	9.1
その他	7	63.6

(その他・自由記入)

- ・体調が悪く、出会いの場へなかなか行けない。
- ・心の中から話ができない。
- ・自分の状況を理解してもらえない
- ・他人とかわりあうのが苦痛

・なかなか年齢的に頼り合える友達を作るのは難しい。

・その場その場ではいい出会いがありますが、続いているかと言われればそうでもなく、でも今の自分にはちょうど良い(遊ぶ時間など余裕がない)気もして、淋しいようなホッとするような、まあこんなもんかという感じです。

Q23 避難先での生活の中で、不足していると思うことはありますか？(「あと、これが揃えば(得られれば)、ある程度満たされた状況・気持ちで過ごせる」と思うもの)

	回答数	%
ある	21	60.0
ない	9	25.7
無回答	5	14.3

(ある)

- ・あと10年ぐらい働ける仕事 / やりがいがあり、心も満たされる、そして収入もある仕事
- ・親しい友人との交流 / 気が置けない人との出会い
- ・夫の仕事が広島にあり、ここで家族と一緒に居ることが出来ればと思う。
- ・親族になかなか会いに行けない(コロナなどもあり) 時間的経済的な余裕
- ・家事を手伝ったり、子どもを見てくれたりする存在。たまに頼めていた親の存在がなく、自分で全部背負っているという思いが辛いな一と思うことがある。
- ・未来への展望(戻るかどうか)決まらないので避難先での家の購入も考えられず10年過ぎ、ローンも通りにくくなる。決まれば楽と思うが、おそらくこのままの状態でも何年も過ぎると思う。
- ・家賃のいらぬ(または安い)住宅 / 冬暖かい家 / 住みやすい家
- ・あの当時の辛かった時の話を共感して話ができる友達がそばにいればなあ…と思う。
- ・(アスチカ、県人会を除いた)仕事以外の人間関係。定年後に楽しめる趣味や人間関係を気づいていきたい。
- ・日々、生存確認ができた、気の置けない友人とくだらない話をして笑い合いたい。今年は物価高で生活が厳しいが、そのことを共有できない。

- 経営能力(笑)
- 精神の安定
- 広島に永住できるように親を呼び寄せたいが主人の仕事のこともあり、なかなか難しく問題が解決しないこと。
- お金と若さ(笑)
- 生活の成り立つ収入

全体を通して

傾向として前年と大きな変化はあまりありませんが、社会情勢から来る暮らしにくさは避難者にも直撃しています。物価高騰についての言及は多くありました。前述した通り、避難してから蓄えを使って生活再建に取り組んできた避難者にとっては、そのダメージはより大きなものになっています。

東日本大震災・原発事故の発災から 12 年が経ち、今回のアンケートでは「震災当時 0 歳だった子どもが今年、中学生になります」というコメントが多くありました。子どもはどんどん成長し、とても長い時間がたっていることが目に見えている一方で、どこか時間が止まったままな感覚を持っていることを語るコメントがありました。アンケートの回答をまとめながら「ああ、その感覚、分かる」と思いました。今後の予定も「決めていない」の割合は減りません。「決めていない」より「決められない」という方が実情に合っているかもしれません。時間だけでは解決できないものを抱えながら、それぞれに今も迷い、考え続けている避難者の姿が見えます。